

—神奈川県立海洋科学高等学校—

漁師の仕事!知る授業    ・漁業ガイダンスで漁船漁業を学ぶ

6 月 18 日、一般社団法人全国漁業就業者確保育成センターが企画する漁業ガイダンスが神奈川県立海洋科学高等学校で開催され、これから船乗りを目指す 41 人の生徒が参加した。一般社団法人全国漁業就業者確保育成センターは、水産庁や一般社団法人大日本水産会、全国漁業協同組合連合会の協力の下、漁業への新規就業者を発掘するため、就労に関する情報提供や全国各地域・各漁業協同組合などと連携し、新たな漁業の担い手を確保・育成することを目的に、全国での漁業就業支援に取り組んでいる。

6 月 18 日、神奈川県立海洋科学高等学校の実習棟教室で、漁業ガイダンス「漁師の仕事!知る授業」が開催され、船舶運航科 3 年生 33 人と専攻科 1 年生 7 人、2 年生 1 人の計 41 人の生徒が出席した。

この漁業ガイダンスは、全国漁業就業者確保育成センターが中心となり、大洋エーアンドエフ株式会社・住吉漁業株式会社・共同船舶株式会社・株式会社長久丸・明豊漁業株式会社・福一漁業株式会社・金沢漁業株式会社など 8 船主と海員組合が参画した。

ガイダンス開始にあたり、全国漁業就業者確保育成センターの北井楓係長が、本ガイダンスの進め方と漁業就業支援フェアのこれからの予定などを説明した。

その後、全日本海員組合三崎支部の錦織康一次長が「各漁業種の説明を聞いて漁船の魅力を知っていただき、将来就職する際の職業の選択肢として参考にしていきたい」とあいさつした。

ガイダンスは 8 社 8 ブースを設置し、練習船「湘南丸」で遠洋航海実習を終えたばかりの生徒たちが、各ブースで担当者から、漁法や会社概要などについて、それぞれ 10 分間ほどの説明を受けた。

海外まき網漁船のブースでは、船上からの投網作業や魚類の取込作業の映像、漁獲された魚の水中映像など、動画を使用した説明で、生徒たちの注目を集めた。

遠洋マグロはえ縄漁船のブースでは、生徒から「遠洋航海実習は楽しかった」「船酔いが大変だった」など遠洋航海実習の経験談を交えながら、航海中や操業中の船内でのコミュニケーション方法などについて意見交換があり、遠洋マグロはえ縄漁船の魅力を生徒たちに伝えた。

生徒はグループ別にそれぞれのブースで説明を受けて、さまざまな漁船漁業の理解を深めた。最後に参加者全員で記念写真を撮影し、漁業ガイダンスを終了した。

「海員だより」